

日本学術会議

東日本大震災に係る学術調査検討委員会（岩澤康裕委員長）によるアンケート（第2回）結果の報告

2017年4月14日

副委員長 福田裕穂

調査の目的

（1）背景

すでに、日本学術会議東日本大震災に係る学術調査検討委員会は、協力学術研究団体を対象に、平成24年10月16日から11月30日にかけて「東日本大震災にかかわる協力学術研究団体の活動を調査した。

（2）課題

しかし、学術団体へのアンケートでは、研究者個人がどのように東日本大震災にかかわったかが必ずしも明らかでない。また、この調査は震災直後でありその活動の帰結点や成果が明らかでなかった。

（3）目的

そこで、学術会議会員・連携会員、さらには広く研究者に呼びかけて、個人・グループレベルでの調査を行うこととした。また、震災から5年たった時点での、その研究の方向性の変化また成果についても調査を行うこととした。

調査の概要－1

- (1) 調査実施主体：日本学術会議 東日本大震災に係る学術調査検討委員会
- (2) 調査対象：東日本大震災に関する学術調査・研究活動を行った全国の研究者・研究グループ
- (3) 調査方法
 - 1. 会員等を通じた調査協力依頼
 - ① 日本学術会議事務局より、第21期～第23期の会員・連携会員（特任含む）の全員会員等自身が東日本大震災に関する学術調査・研究活動を行っている場合は、調査への回答
 - ② 会員等以外で東日本大震災に関する学術調査・研究活動を行っている研究者・研究グループの心当たりがある場合は、調査実施の周知および協力の呼びかけ
 - 2. 学協会を通じた調査協力依頼
日本学術会議事務局より、日本学術会議協力学術研究団体（学協会）に対して、メールにて、各学協会の会員への調査実施の周知および協力の呼びかけを依頼

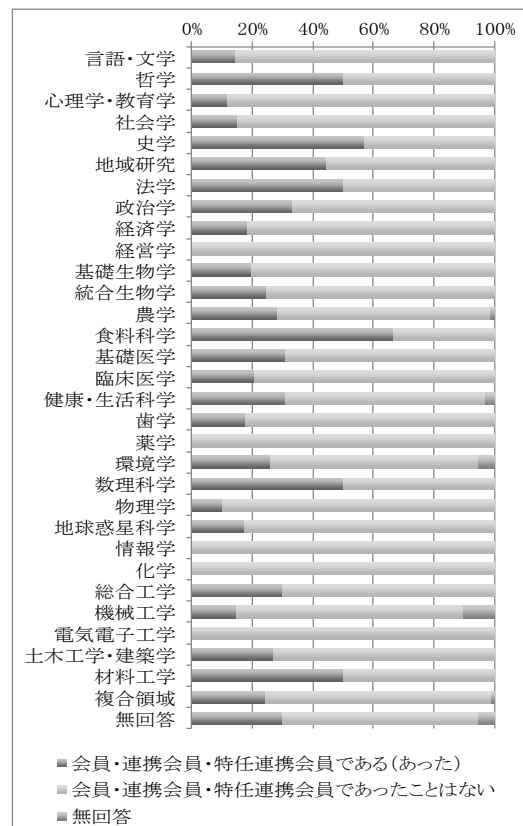
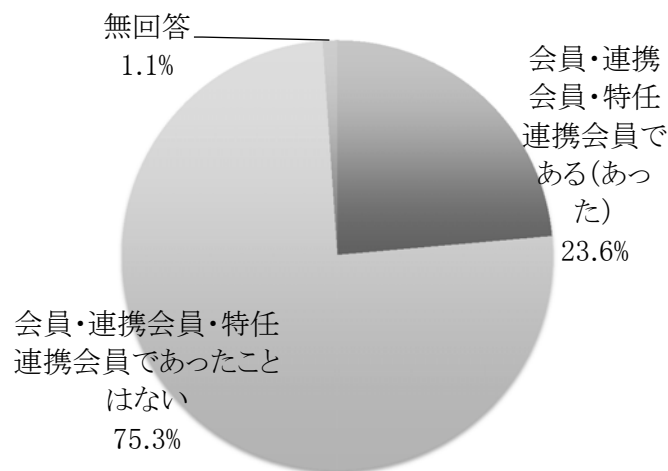
調査の概要－2

- (4) 調査実施期間 2016年5月16日～同7月20日
 - 5月16日 会員等宛に協力依頼メールを送付（当初の回答期限：6月16日）
 - 6月9日 リマインドを実施
 - 6月21日 回答期限を延長（6月30日まで）
 - 7月1日 学協会宛に協力依頼メールを送付（回答期限：7月20日）
 - 7月27日 回答受け付けの最終締切り
- (5) 有効回答数 732票

調査項目

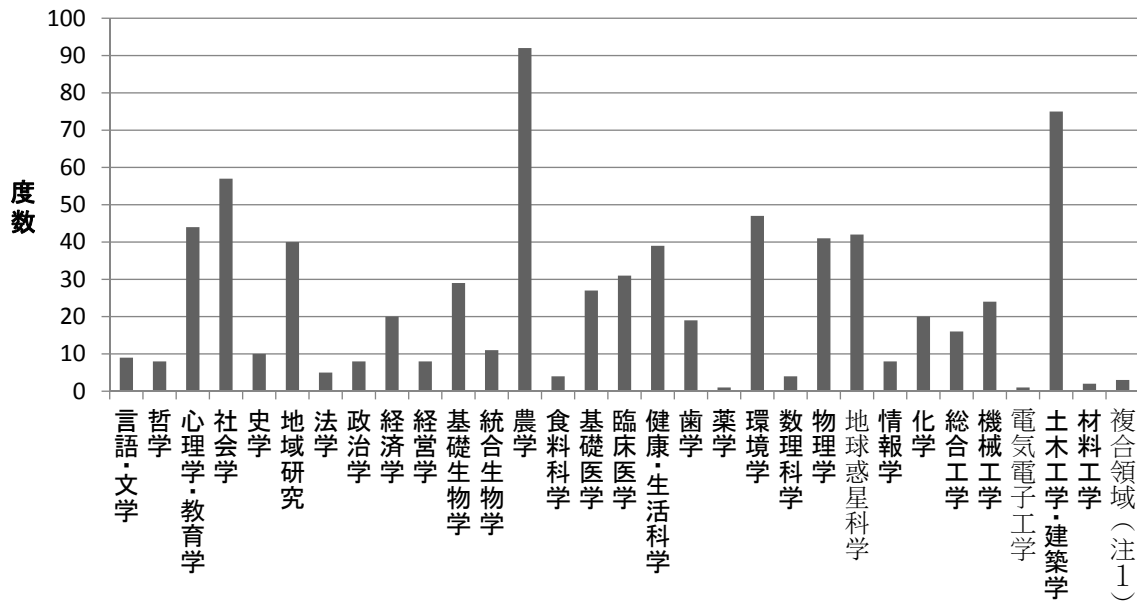
回答者の氏名・所属・連絡先等(問1) ※非公開項目
回答者の日本学術会議会員・非会員の別(問2)
回答者の専門分野(問3)
学術調査・研究活動の名称(問4) ※非公開項目
学術調査・研究活動の実施主体名(問5) ※非公開項目
学術調査・研究活動における回答者の立場・役割(問6)
学術調査・研究活動の概要(問7)
学術調査・研究活動のテーマ・課題(問8)
学術調査・研究活動の目的(問9)
学術調査・研究活動の開始時期・終了時期(問10)
学術調査・研究活動の実施地域(問11)
学術調査・研究活動開始のきっかけ(問12)
学術調査・研究活動の参加人数(問13)
学術調査・研究活動の資金(問14)
学術調査・研究活動実施における他団体・組織との連携(問15)
学術調査・研究活動の成果(問16)
学術調査・研究活動の成果に対する社会的反響(問17)
学術調査・研究活動実施上の問題の有無、内容(問18)
学術調査・研究活動の研究倫理上検討を要する問題の有無、内容(問19)
学術調査・研究活動を振り返っての改善の余地の有無、内容(問20)
学術調査・研究活動についての自己評価(問21)
将来の災害に備えた対策、制度設計等の意見(問22)

回答者

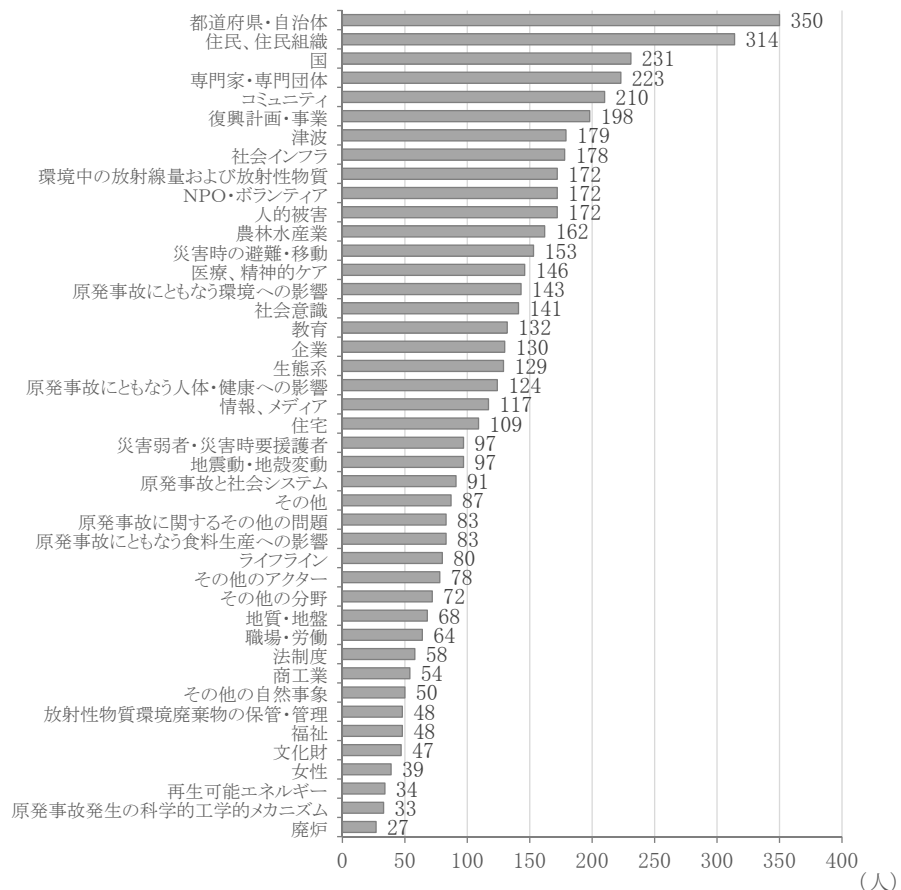


回答者の分野（複数回答）

問3の専門分野+「31複合領域」の第1回答分野の合計



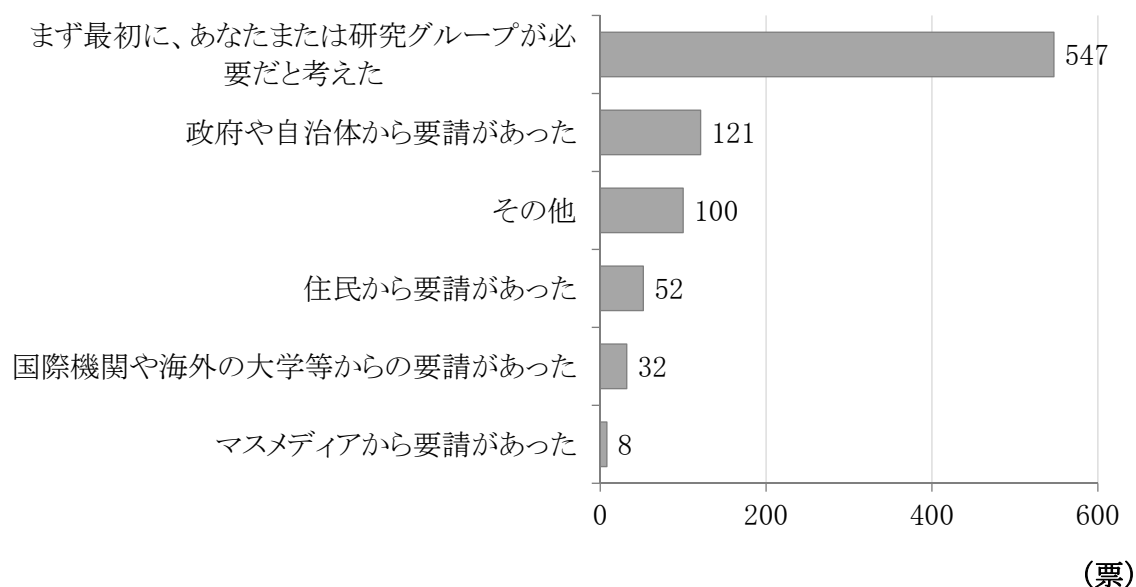
学術調査・研究活動のテーマ（複数回答）



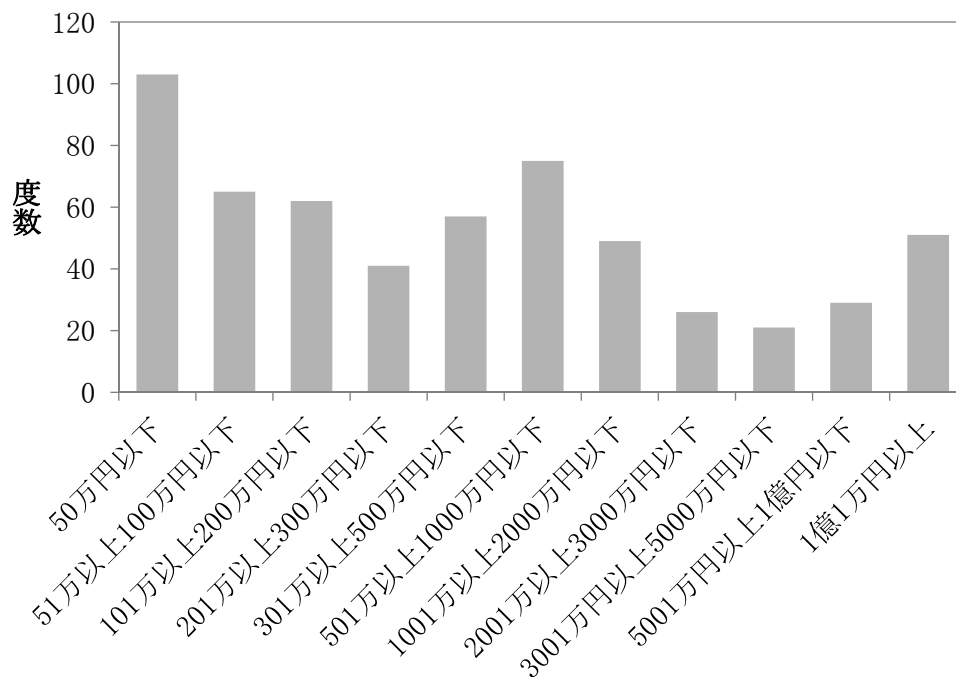
目的（複数回答）

回答	度数	%
現状・実態の解明	516	28.1
情報発信	282	15.4
被災者への直接的支援	178	9.7
東日本大震災の復旧・復興施策への反映	289	15.8
将来の防災・減災施策のための基礎資料やデータの収集	369	20.1
防災・減災への国際貢献	122	6.7
その他	78	4.3
合計	1834	100.0

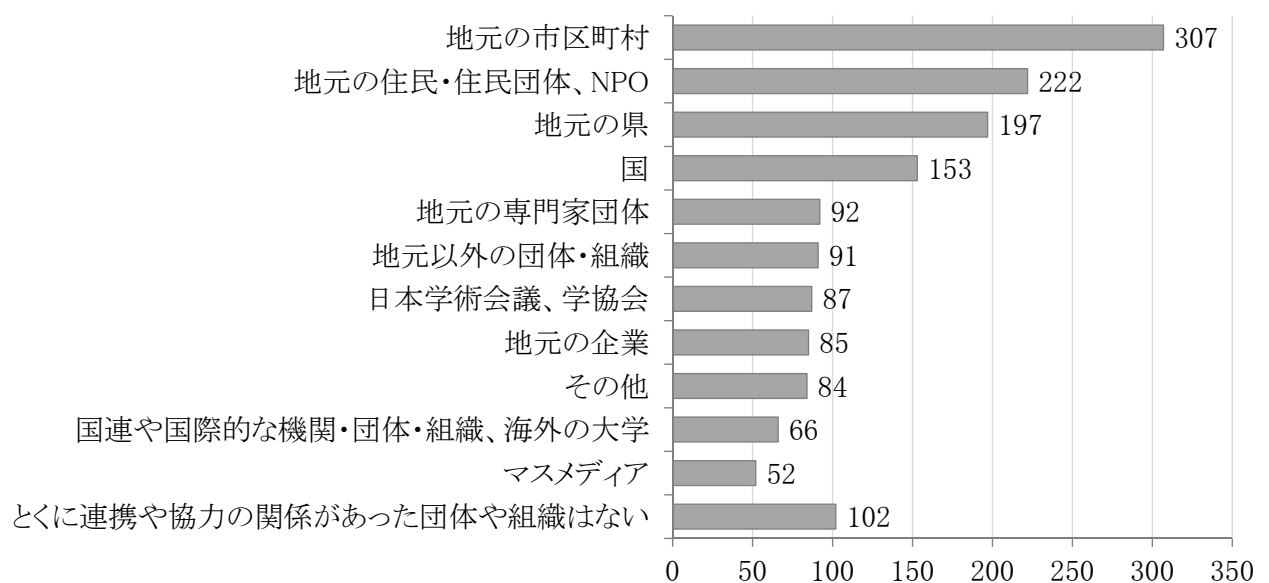
調査のきっかけ（複数回答）



調査費用

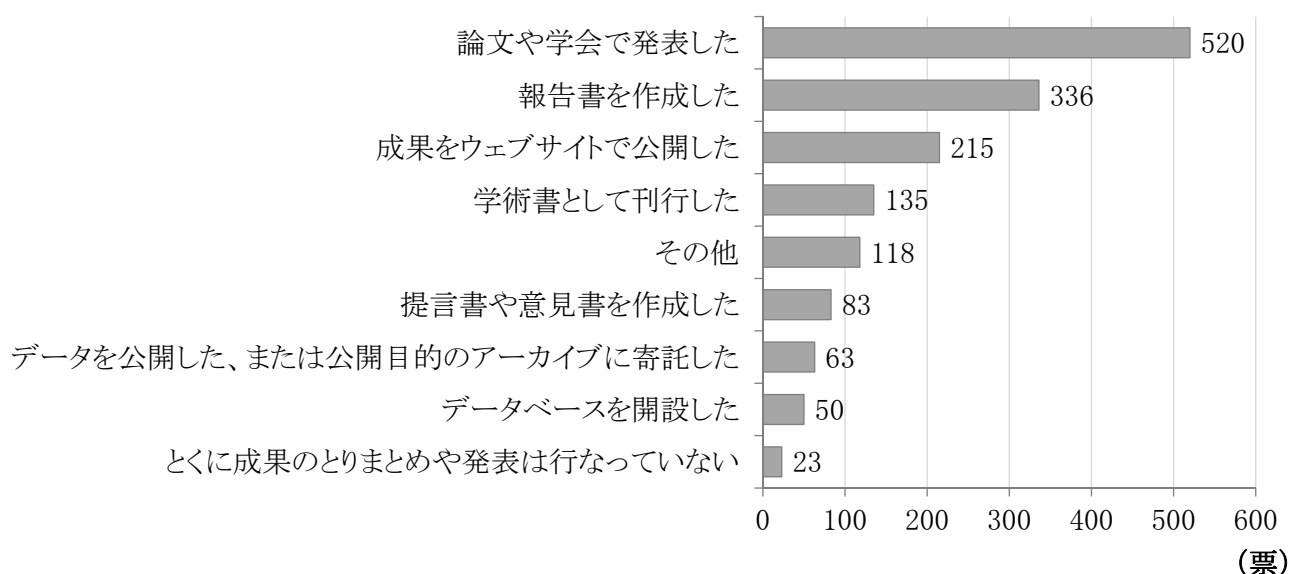


連携・協力組織（複数回答）

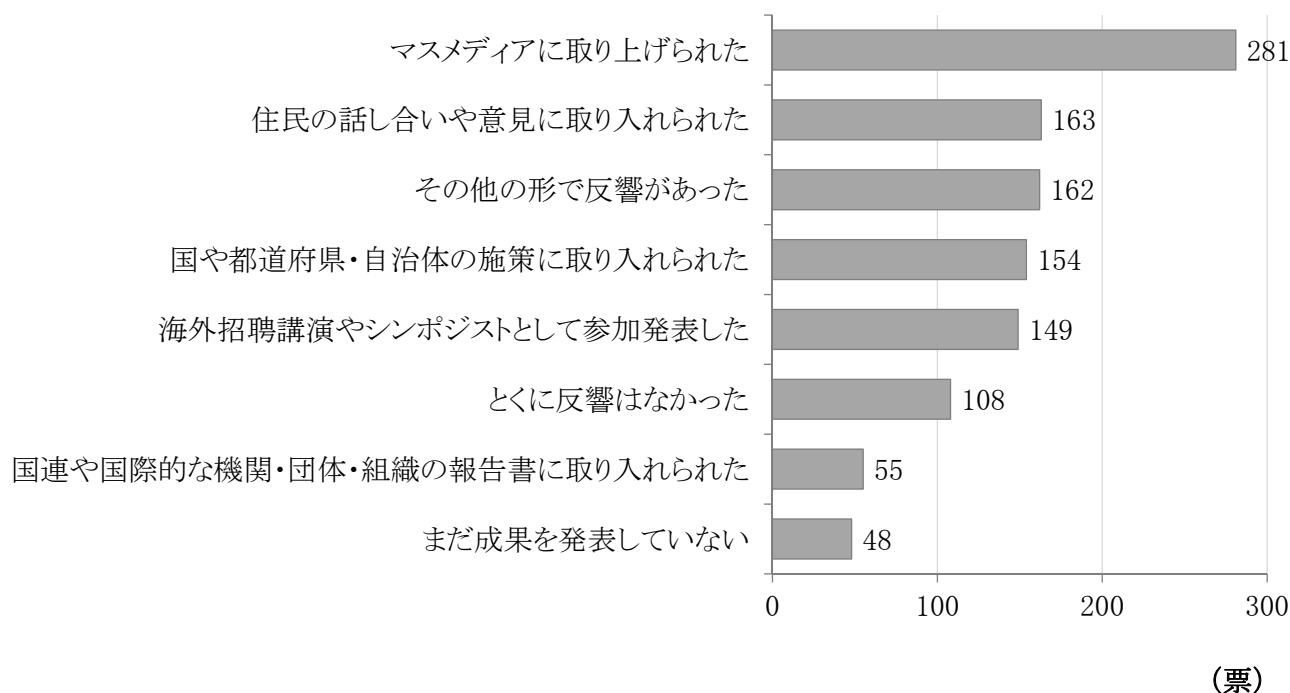


(票)

成果のとりまとめ（複数回答）



社会的反響



施策の改善に役に立ったか？

回答	度数	%	有効%
そう思う	132	18.0	20.5
どちらかといえばそう思う	191	26.1	29.7
どちらともいえない	116	15.8	18.0
どちらかといえばそう思わない	32	4.4	5.0
そう思わない	43	5.9	6.7
わからない	33	4.5	5.1
あてはまらない	97	13.3	15.1
無回答	88	12.0	-
合計	732	100.0	-

国際発信

できたか？

回答	度数	%	有効%
そう思う	122	16.7	18.9
どちらかといえばそう思う	159	21.7	24.7
どちらともいえない	121	16.5	18.8
どちらかといえばそう思わない	50	6.8	7.8
そう思わない	113	15.4	17.5
わからない	8	1.1	1.2
あてはまらない	71	9.7	11.0
無回答	88	12.0	-
合計	732	100.0	-

十分な評価はを受けたか？

回答	度数	%	有効%
そう思う	80	10.9	12.3
どちらかといえばそう思う	134	18.3	20.7
どちらともいえない	132	18.0	20.4
どちらかといえばそう思わない	49	6.7	7.6
そう思わない	127	17.3	19.6
わからない	44	6.0	6.8
あてはまらない	82	11.2	12.7
無回答	84	11.5	-
合計	732	100.0	-

自由記述の例：問22

問22 今回の「学術調査・研究活動」のご経験に基づき、次の大災害前、災害渦中および大災害後の対策、制度設計、予算措置、政策・施策、学術会議や学協会との連携等についてご意見やご要望があれば自由にお書きください。

回答	度数	%
記述なし	430	58.7
記述あり	302	41.3
合計	732	100.0

今後の予定

1. 基礎集計データ、自由記述などをもとに提言を作成
2. アンケートのデータを資料として添付